



# 瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部  
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



主日の説教

今日のみことば

年間第26主日 A年(2023年10月1日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：エゼキエル書 18章25—28節

第二朗読：フィリピの信徒への手紙 2章1—11節

福音朗読：マタイによる福音書 21章28—32節

## 考え直す

三つの朗読から

第一朗読にある「正しい」、あるいは「正しさ」に注目してください。捕囚<sup>ほしゆう</sup>の地で辛酸<sup>しんさん</sup>をなめ尽くしているイスラエルの民<sup>たみ</sup>は、自分たちを基準<sup>きじゆん</sup>にして「主の道は正しくない」と言い張<sup>は</sup>っています。

第二朗読では3節の「考え」、6節の「思わず」に注目しましょう。実はギリシア語原文はどちらも同じ単語です。よく調べた事実<sup>じつじ</sup>に基づいた判断<sup>しめ</sup>を示す場合に使われます。相手を自分より優<sup>すぐ</sup>れたものと考えられる(3節参照)のは、キリストが自分を神と等しい者とは思わないで、自分を無にしたからです(7節参照)。

福音朗読にある「考え直して」もここに響く表現です。祭司長、長老たちは自分たちこそが「正しい」と「考え」、そのことを「考え直さ」なかったのです。洗礼者ヨハネのもとに集う徴税人<sup>つど ちようぜいにん</sup>や娼婦<sup>しょうふ</sup>たちを見ても、彼らは何も感じなかったのです。

説教：考え直す

今日の福音はエルサレム<sup>とうちやく</sup>到着後に神殿<sup>ふたい</sup>を舞台として、祭司長たちや長老たちとの論争<sup>ろんそう</sup>の箇所<sup>かしよ</sup>です。

イエスさまが神殿<sup>けいだい</sup>の境内<sup>けいだい</sup>に入って教えておられると、祭司長や民の長老たちが近寄って来て言いました。「何の権威<sup>けんい</sup>でこのようなことをしているのか。だれがその権威を与えたのか」(23節)。そこで、彼らはイエスさまに「分からない」と答えます。すると、イエスさまも言われます。「そ

れなら、何の権威でこのようなことをするのか、わたしも言うまい」27節)。

そして、今日の朗読箇所となります。「あなたたちはどう思うのか」(28節)と、権威について詰め寄る祭司長や長老たちに対して、イエスさまはご自分の権威について話し始めます。

32節の「考え直して」に注目してください。原文ではメタメロマイです。新約聖書には6回登場します。「自分の行為の結果を知って、後で違った考えになる＝考え直す」の意味と「自分の行為の結果を知って、それを悲しみ、後悔する」の二つの意味があります。ここでは前者の意味で理解したらよいでしょう。

なぜ兄は自分の考えを「直した」のでしょうか。その点は福音書には記されていません。黙想の材料になるかもしれません。自分の意見を正しいとしてこだわるよりも、自分の意見よりも「より正しい」ものがあると気がついたのでしょうか。あるいは、自分の思うところに従って生きるよりも、父親の呼びかけに従って生きる方が「より正しい」と気がついたのでしょうか。兄のころと態度は大きく変化しようとしています。

第一朗読にあるような自分の正しさに固執し、正しさを誇示する人々が現代社会にはあふれています。誰もが自分自身が考える正しさを主張します。主張するだけならまだしも、自分の強さ、正しさで他人を裁いています。しかし、人を裁くのではなく、自分の弱さ、罪深さを正直に認めて神に救いを願うようにとわたしたちキリスト者は招かれています。

福音にある「考え直す」は印象的な表現となります。声高に正しさを叫んでも何も変わりません。正しさで人を裁いても進展はありません。考えを変える。生き方を変えることが必要です。ですが、生き方を変えるのは至難のわざです。それでも、生き方を考え直すきっかけは普通の人生の歩みの中にたくさんあるのではないのでしょうか。自分が考え直すのではないのです。神さまが出来事を通じて考え直せるようにしてくださるのです。

## おしらせ

10月29日は、「ロザリオ祭」として、ミサの時間は7時と10時半だけです。

アントニオ会館の庭でミサをささげて、軽食を楽しみましょう。